



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4601S		
科目名	ゼミナール I		
担当教員	美濃輪 正行		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 3		
講義室	1210	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－F 〔探究力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 3－H 〔論理的思考力〕理論整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 D P 4－I 〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 D P 8－M 〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状況に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 CP1-E1 学識・専門技能 学識と専門技能（20%） CP4-F2 課題解決（20%） CP3-H1 論理的思考（20%） CP4-I1 理解・分析と読解（20%） CP4-I3 情報分析（20%）		
教員の実務経験	担当教員は、当大学着任前に情報サービスを提供する民間企業で勤務しておりました。本講義で取り扱う内容は、情報システムの知見を深めるために必要とされるものです。情報システムに関する知見は広範囲に亘っており、技術的な知識の理解に留まることなく、包括的な視点からの考察が求められます。担当教員は情報サービスを直接提供する立場でシステム構築や運用管理等で様々な経験を積んでおり、これらの実務経験を積極的に講義に取り込んでいく所存です。（第2～14回）		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期		
科目概要・キーワード	教員は、危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な入門レベルの知識やスキルを身に付けるための指導を行います。これによって、学生自身は危機管理とITに関する興味を喚起して、専門分野の研究を自主的に進目することができることを目指します。教員は、情報技術のリスクに関するいくつかのテーマを提示し、学生は自らのキャリア形成に役立つと考え、また後のゼミナールに続く研究テーマを絞り込みます。授業形態は講義及びディスカッション形式に		

2024/07/22 11:43

シラバス参照

	より行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 (キーワード) 研究テーマの策定 情報セキュリティ、危機管理、情報技術、 I T						
授業の趣旨	■副題 情報セキュリティに関連する危機管理の事例を考える ■授業の目的 情報技術を取り巻く環境では様々なリスクが現実化しますが、それらが発現する経過をケーススタディを通して理解を深めます。リスクの真因やその影響範囲は様々です。この授業では、情報技術の領域、社会的領域、法令の領域等に関連するリスク事象を捉え、個々のケースの特性を考察します。その結果、リスク事象に共通するリスクの発現工程や対処法に対する考え方を理解する端緒とします。 ■授業のポイント リスクの発現のプロセスは大変興味深いものです。本科目では、教員が一般書籍からケーススタディの題材を選定して、毎回与えられた命題に対して意見を出し合い、考察を深める形式で授業を進めます。学生から要望があり相応の内容であれば、題材とすることも検討します。考察の結果は各自が図にまとめて適宜発表します。						
総合到達目標	■ 様々な危機に対峙するために、情報技術の分野で危機管理に関して適切な問題意識を持つことができるようになる。 ■ 目標となる具体的指標はの内容次の通り。 ・技術領域、社会領域において、情報技術が主因となる様々なリスクがどのように影響を及ぼすか把握する。 ・リスクの主因、結果との因果関係を考えることができる。 ・各リスク事象の特性を捉えることができる。						
成績評価方法	■ 研究レポート（70％）：適用ルーブリック E1・F2・H1・I1・I3 (評価の観点) * 選択したリスク事象について考察した結果を文書化する。 * 文書表現、事象把握の的確さを意識する。 (フィードバックの方法) * レポート毎に、採点結果を公開します。 * 成果物を評価して、各学生に個人指導を行います。 ■ 授業参加度（30％）：適用ルーブリック C1・F2・L1 (評価の観点) 講義後にアンケートシートを提出する。 (フィードバックの方法) 出欠情報としてポータルシステムに公開します。						
履修条件	「情報システム論/情報技術と社会」の内容を理解していることが望まれます。未履修の学生は教員から提示された教材を使って自習すること。						
履修上の注意点	授業に参加することを最優先に考えること。						
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>①授業テーマ オリエンテーション（説明） ②授業概要 ガイダンスとして講義の方針と目的、講義の構成、評価方法について説明します。受講生は、授業で取り上げた簡単なケースについて、議論することで本コースの概要を把握します。(I1) ③予習（240分） 「情報システム論/情報技術と社会」の講義資料を精読すること。</td></tr><tr><td>2</td><td>①授業テーマ 情報技術領域に関するケーススタディ① ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E1・I1・I3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H1・I1・L1）。他者の意見や教員の指摘により、気づきを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I1・E1） ③予習（120分）</td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ オリエンテーション（説明） ②授業概要 ガイダンスとして講義の方針と目的、講義の構成、評価方法について説明します。受講生は、授業で取り上げた簡単なケースについて、議論することで本コースの概要を把握します。(I1) ③予習（240分） 「情報システム論/情報技術と社会」の講義資料を精読すること。	2	①授業テーマ 情報技術領域に関するケーススタディ① ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E1・I1・I3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H1・I1・L1）。他者の意見や教員の指摘により、気づきを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I1・E1） ③予習（120分）
回	内容						
1	①授業テーマ オリエンテーション（説明） ②授業概要 ガイダンスとして講義の方針と目的、講義の構成、評価方法について説明します。受講生は、授業で取り上げた簡単なケースについて、議論することで本コースの概要を把握します。(I1) ③予習（240分） 「情報システム論/情報技術と社会」の講義資料を精読すること。						
2	①授業テーマ 情報技術領域に関するケーススタディ① ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E1・I1・I3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H1・I1・L1）。他者の意見や教員の指摘により、気づきを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I1・E1） ③予習（120分）						

	教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
3	①授業テーマ 情報技術領域に関するケーススタディ② ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E1・I1・I3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H1・I1・L1）。他者の意見や教員の指摘により、気づきを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I1・E1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
4	①授業テーマ 情報技術領域に関するケーススタディ③ ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E1・I1・I3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H1・I1・L1）。他者の意見や教員の指摘により、気づきを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I1・E1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
5	①授業テーマ 情報技術領域に関するケーススタディ④ ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E1・I1・I3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H1・I1・L1）。他者の意見や教員の指摘により、気づきを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I1・E1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
6	①授業テーマ 社会領域に関するケーススタディ① ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E1・I1・I3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H1・I1・L1）。他者の意見や教員の指摘により、気づきを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I1・E1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
7	①授業テーマ 社会領域に関するケーススタディ② ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E1・I1・I3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H1・I1・L1）。他者の意見や教員の指摘により、気づきを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今

		後の研究対象の的確な選定を図る。（I 1・E 1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
8		①授業テーマ 社会領域に関するケーススタディ③ ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E 1・I 1・I 3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H 1・I 1・L 1）。他者の意見や教員の指摘により、気付きを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I 1・E 1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
9		①授業テーマ 社会領域に関するケーススタディ③ ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E 1・I 1・I 3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H 1・I 1・L 1）。他者の意見や教員の指摘により、気付きを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I 1・E 1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
10		①授業テーマ 社会領域に関するケーススタディ④ ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E 1・I 1・I 3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H 1・I 1・L 1）。他者の意見や教員の指摘により、気付きを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I 1・E 1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
11		①授業テーマ 法令に関するリスクのケーススタディ① ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E 1・I 1・I 3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H 1・I 1・L 1）。他者の意見や教員の指摘により、気付きを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I 1・E 1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
12		①授業テーマ 法令に関するリスクのケーススタディ② ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E 1・I 1・I 3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学

	生がテーマを出して、ディスカッションする（H 1・I 1・L 1）。他者の意見や教員の指摘により、気づきを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I 1・E 1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
13	①授業テーマ その他のケーススタディ① ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E 1・I 1・I 3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H 1・I 1・L 1）。他者の意見や教員の指摘により、気づきを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I 1・E 1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
14	①授業テーマ その他のケーススタディ② ②授業概要 事前に提供された資料を保有する知識と読解力を駆使して精読（E 1・I 1・I 3）、授業に臨む。授業内では、実務経験を活かした視点より教員の助言も交えて各学生がテーマを出して、ディスカッションする（H 1・I 1・L 1）。他者の意見や教員の指摘により、気づきを得たり、自身が持っていなかった知見や考え方を認識して、今後の研究対象の的確な選定を図る。（I 1・E 1） ③予習（120分） 教員から提供された資料を事前に精読して、論旨の把握、不明な言葉の洗い出し、疑問点、テーマとしてディスカッションすべき課題について事前に考える。 ④復習（120分） 授業内容を振り返って、新たな知見や学習成果等について整理すること。
15	①授業テーマ 総括 ②授業概要 授業で取り扱ったすべてのケースを振り返って、受講者間で意見を交換します。本科目で履修した内容をまとめた研究レポートの作成に当たってガイドダンスを行います。（E 1・H 1・I 1・I 3） ③復習（240分） ガイドダンスにある条件を満たすように研究レポートを編集、提出する。
関連科目	情報技術と社会(未定)、サイバーセキュリティ論(未定)、デジタルフォレンジック(未定)、危機管理特殊講義 2（デジタルリスク）が関連します。
教科書	特にありません。使用する資料は教員から提供します。
参考書・参考URL	講義中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に公開します。 ■オフィスアワー 開講時に公開します。
研究比率	■ 危機管理四領域との対応 情報セキュリティ：70% 災害マネジメント：10% パブリックセキュリティ：10% グローバルセキュリティ：10% ■ 危機管理と法学との割合 危機管理：95% 法学：5%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.